

# 2015年度 事業報告書

2015年1月1日～2015年12月31日まで

NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

## (1) チェルノブイリ原発事故の被災者及び被災地に対する支援事業

### ①ベラルーシ訪問事業

▼実施期間：2015年6月～12月

▼目的など：

チェルノブイリ原発事故被災者に対して、専門家らとの協業のもと、医療を中心とした支援事業に取り組むことによる被災者の福祉の向上を目的としました。現地調査や関係者へのヒアリング等を行うことで、より有益な事業を実施していくことを運営方針としました。

▼実施内容：

ベラルーシ大統領選挙の関係で現地訪問が困難となったため、予定していた甲状腺検査や外科手術および技術指導、調査などは実施できませんでした。なお、ローカルNGO「コンフィデンス」への支援金900ドルは協力者を通じて届けることができました。また（株）ニコンインステック様より顕微鏡専用デジカメ（写真）を寄贈していただき、2016年1月にベラルーシを訪問した際にプレスト州立内分泌診療所へ寄贈しました。

▼課題など：

事業実施に至らなかったため、事業の有益性や受益対象者への貢献度を具体的に検討することはできませんでした。ただ事業の実務担当者を増員したことにより業務がスムーズに進んだ部分もありました。今後は関係者とのより良い関係性の構築、担当者および理事全体での事業の進捗状況や課題などの共有を図り、より効果的な事業の実施を目指していきます。



寄贈品一式

### ②被災者と障がい者による福祉工房「のぞみ21」支援事業

▼実施期間：2015年1月～12月

▼目的など：

チェルノブイリ原発事故で最も被害を受けたベラルーシ共和国ゴメリ州の福祉工房「のぞみ21」関係者らの社会的、経済的自立を目指し、支援活動に取り組みました。

▼実施内容：

工房より仕入れた木工品（マトリョーシカなど）やリネン製品（キッチン用品など）を、インターネットや各催しなどで販売しました。また支援者の皆さまから寄せられた運営カンパ835ドルを協力者を通じて届けました。

▼課題など：

現地訪問はできませんでしたが、協力者を通じて商品仕入ができました。しかし不良品が混ざる、梱包が不十分で破損が生じるといった問題があり、今後の対策が必要です。また売上は年々減少傾向にあるため、受益者向けマーケティングや商品開発などに取り組んで売上増加を図りたいと考えています。



イベントでの展示風景

## (2) 日本国内での原子力災害などによる被災者及び被災地に対する支援事業

### ① 東日本大震災に対する支援事業

▼実施期間：2015年1月～12月

▼目的など：

東日本大震災で被災された方々の福祉の向上を目指し、支援活動に取り組みました。

▼実施内容：

昨年につづき、広く一般の方々に向けての寄付呼びかけと、

「南相馬ファクトリー」の缶バッジ<sup>(※)</sup>の販売を行いました。

また12月12日～13日の2日間、福島県郡山市で開催された「第3回広域被災者支援ネットワーク会議」（主催：獨協医科大学国際疫学研究室・木村真三准教授）に参加しました。同会議では山田英雄医療通訳より、これまでのチェルノブイリ被災地域での医療支援活動について報告がありました。

その他、被災地域の視察などを通して各支援団体関係者や住民の方々との交流、意見交換を行いました。

※震災復興プロジェクトの一環で、複数の福祉作業所のスタッフたちが共同で缶バッジをつくっています。

▼課題など：

被災地を訪問することで、具体的な事業展開に向けての一步を踏み出すことができました。今後は現地関係者とのネットワーク構築を図り、現地のニーズを客観的に捉えた支援事業の実施を目指していきます。合わせて寄付の呼びかけおよび商品購入を通じての支援呼びかけについては、寄付者に対してその効果が可視化できる広報戦略に力を注ぐよう務めます。

## (3) 被災者及び被災地の現状を周知するための普及啓発事業

### ① 会報「チェルノブイリ通信」発行事業 < <http://www.cher9.to/tusin.html> >

▼実施期間：2015年1月～12月

▼実施内容：

2015年3、6、9、12月の年4回発行し、会員の皆さまや広く一般の方々へ国内外での活動や被災地の様子について伝えました。6月発行号より紙面レイアウトをリニューアル。各号の発行部数、掲載内容などは次のとおりです。なお12月分については訪ベラ事業の中止にともない号外として発行しました。

号	発行月	発行部数	特集記事
No.99	3月	1600部	東日本大震災から4年 あなたならどうする？ 震災後に避難移住を選択したママのお話
No.100	6月	1800部	原発事故がもたらした孤独や不安に向き合うこと リュドミラ・ウクラインカさんの体験記
No.101	9月	1800部	特別寄稿：ベラルーシの今 原発事故後を生きるベラルーシと日本との交流について
号外	12月	2000部	チェルノブイリ連続学習会報告

▼課題など：

紙媒体での発行およびウェブ上での閲覧を通して、活動報告や被災地域の現状を支援者および広く一般の方々へ情報を発信できました。特にスタッフとは視点の異なる外部協力者らからの寄稿文を掲載することで、多角的な情報提供ができました。今後は、各種事業の成果、効果をわかりやすく伝えることのできる紙面づくりを心がけ、寄付者や支援者に対する説明責任を果たしていきたいと考えます。

## ② イベント企画・運営事業

▼実施期間：2015年7月～12月

▼実施内容：

CMN発足25周年事業として計6回の「チェルノブイリ連続学習会」を開催しました。メイン講師は河上雅夫理事が務め、原発や放射能などについての理解を深めました。参加者からは、“大変勉強になった”、“原発の問題点が整理できた”といった声がありました。各回の実施概要は次のとおりです。



第6回学習会の様子

●第1回：「放射能とは」 07月12日@びおとーぷ・会議室（福岡市博多区）	【参加者：7名】
●第2回：「原発とは -原子力開発の歴史、原発の基本構造-」 08月08日@ココロンセンター・研修室（福岡市中央区）	【参加者：5名】
●第3回：「チェルノブイリ原発事故、発生から現在の支援まで」 09月12日@ココロンセンター・研修室（福岡市中央区）	【参加者：5名】
●第4回：「福島第一原発事故について -事故の経過から甲状腺検査まで-」 10月10日@あすみん・セミナールーム（福岡市中央区）	【参加者：5名】
●第5回：「原発を取り巻く問題（1）代替エネルギーについて」 11月14日@あすみん・セミナールーム（福岡市中央区）	【参加者：7名】
●第6回：「原発を取り巻く問題（2）地震と原発」 12月12日@あすみん・セミナールーム（福岡市中央区）	【参加者：9名】

▼課題など：

事業を実施するにあたり、ターゲットの絞込が不十分であったため効果的な広報ができませんでした。今年度の反省を次年度の事業実施に生かしていきたいと考えます。一方、継続しての参加者が複数あり、数は少ないものの支援者との顔の見える関係を築くことができました。

## ③ 物品販売事業

▼実施期間：2015年1月～12月

▼実施内容：

インターネットや各催しなどでチェルノブイリ関連書籍を販売しました。  
2016年のオリジナルカレンダーは販売を取りやめにしました。

▼課題など：

新規の取り組みには至りませんでした。今後に向けては該当商品の必要性や意義、対象、目標と成果指標といった対ニーズの基本要素を事業に組み入れることを重要点と位置づけ、事業実施に取り組みます。

## ④ その他の情報発信事業

▼実施期間：2015年1月～12月

▼実施内容：

団体ウェブサイトやFacebookにて、イベント、ボランティアなどの情報を発信しました。  
北九州市立大学（6月29日）、明治学園高等学校（7月17日）にて出前授業を行いました。  
各種催しにてブースを出店し、活動紹介を行いました。  
取材対応、原稿執筆を行いました。

\* DtoDコンシェルジュ・社会貢献ジャーナル  
< <https://www.dtod.ne.jp/journal/> >

- \* 再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本・会報誌「Green Net」  
< <http://www.repw.net/about/greenet/> >
- \* ソーシャルアクションリング  
< <http://www.social-action-ring.org/detail/detail-870/> >

▼課題など：

様々なかたちで情報を発信し、活動内容や被災地域の現状を伝えることができました。今後は情報を発信したい対象や目的をより具体化し、整合性のある広報活動に努めます。

月日	内容
01月12日	フェアトレード試食会 @福岡県NPO・ボランティアセンター（福岡市博多区）
01月18日	おもちゃのかえっこin新宮 @シーオーレ新宮（福岡県粕屋郡）
05月03日	第5回北九州九条まつり @勝山公園芝生広場（北九州市小倉北区）
09月17日	だれかに話したくなるフェアトレード勉強会 vol.1 フェアトレードでつながる ネパールの女性の暮らしと仕事 @福岡友の会（福岡市中央区）
10月04日	ハートフルフェスタ福岡2015 @福岡市役所西側 ふれあい広場（福岡市中央区）
11月15日	第31回まつり古賀 @古賀市役所、他（福岡県古賀市）
11月22日	第27回和白干潟まつり @和白干潟 海の広場（福岡市東区）



フェアトレード試食会



和白干潟まつり

#### (4) フェアトレード事業

##### ① 物品販売事業

▼実施期間：2015年1月～12月

▼目的など：

フェアトレード商品の紹介、販売を通じて国際交流を促進することを目的としました。

▼実施内容：

（株）ウインドファームの協力を得て、フェアトレードコーヒー、紅茶などの紹介、販売を行いました。春、冬の年2回、販売促進キャンペーン期間を設けました。売上は前年度比87%でした。

▼課題など：

年度中に値上げがあり、価格改定後の売上に大きな影響が見られました。販売が先行し、事業目的である国際交流の促進に寄与する動きが消極的であったため、今後は「フェアトレード」を前面に出した販売戦略に取り組んでいきたいと考えます。

## その他

### ①組織運営体制

▼理事 : 中山悠、和田幸策、河上雅夫、小山浩一、吉本美貴、川原秀之、小川峰湖、平川可南子  
(任期中に辞任した者を含む。理事長は河上→中山、副理事長は中山→和田がそれぞれ就任)

▼監事 : 本田正之

▼事務 : 川原秀之(事務局長)、三島さとこ(常勤職員→非常勤職員)

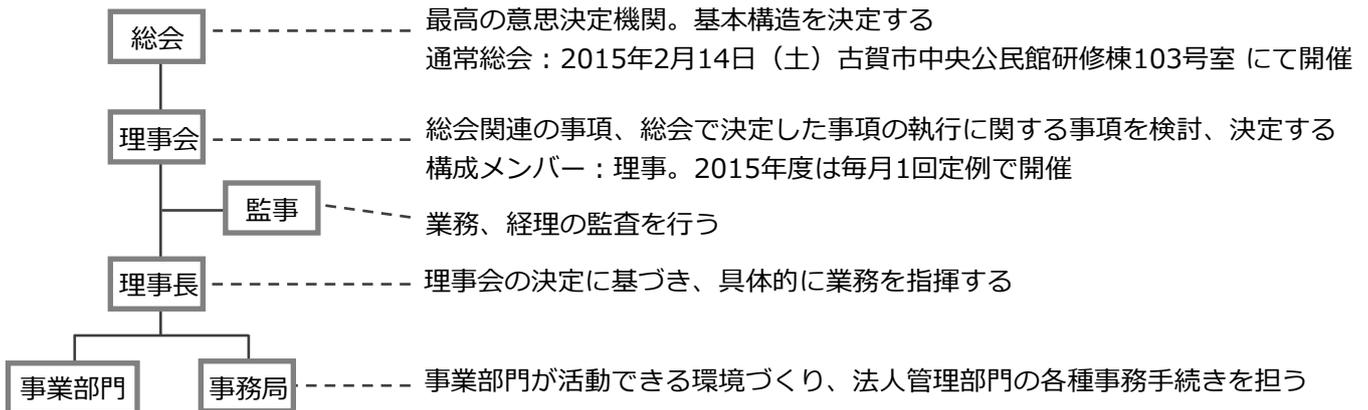
▼ボランティア :

各種事業でボランティア募集を行い、イベント、会報発行、翻訳作業等にてご協力を賜りました。その他、今年度の支援事業を実施する上で多くの法人、個人の方からご協力、ご賛同を賜りました。この場を借りてお礼申し上げます。

今後も各種事業において協力者の呼びかけを進めてまいります。

▼今後の体制 :

総会については、書面等による表決者・表決委任者を除いた社員の出席状況が芳しくありません。支援者の方々および広く一般の方々に事業の実績を報告し、直接コミュニケーションをとることのできる貴重な機会と位置づけ、参加を呼びかけていきたいと考えます。理事会については、意思決定をより円滑に進めることができるように改善策の検討に努めます。また事務局体制については、常勤職員を置くことをやめ、理事を含め業務の役割分担を図りましたが、今後は担当外の業務に関してもお互いにカバーできるよう情報の共有などをより深く行い、各自が責任を持って運営に携わります。



### ②組織基盤強化

#### 共感者を増やすための理事・事務局エンパワーメント研修

▼実施日時、場所：2015年12月19日(土) @福岡翔学館高等学校(福岡市博多区)

▼協力：NPO法人ミディエイド

支援者が寄付の効果を実感し、より多くの共感・賛同を得るためには、事業の成果目標を可視化し、その説明責任を果たす必要があると考え「事業の目標と成果指標の設定」に関する研修を実施しました。次年度に2回目の研修を行い、詳細は今後の会報などで報告する予定です。

(九州NGO活動助成金「基盤強化助成事業」を活用)

#### セミナー参加

▼福岡県NPO・ボランティアセンター「広報相談」	2015/08/27
▼福岡県NPO・ボランティアセンター「NPO会計相談」	2015/09/17
▼つながりひろば「広報講座」	2015/11/14、2015/12/12
▼あすみん「NPO向け組織基盤強化講座」(労務編)	2015/12/15

### ③資金調達

#### グリーンコープ生協組合員へカンパ申込みチラシを配布、協力呼びかけ

グリーンコープ生活協同組合を通じて組合員の方々へカンパを呼びかけ、合計3,608,000円（前年度比160%）の寄付をいただきました。

#### 「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」に団体登録

毎月11日の買い物レシートの金額の1%が登録団体に寄付される「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」に登録。2014年度下半期分として6,900円のギフトカードをいただきました。

\*贈呈式に出席（4/11、7/25）@イオンSC古賀店

\*2015年8月より登録先をイオンモール福津店に変更。2015年度上半期分の700円は時期繰り越し

#### きしゃぼんりサイクル募金での寄付呼びかけ

嵯峨野株式会社のCSR活動の古本募金事業「きしゃぼんりサイクル募金」に登録。ウェブサイト、チラシ配布などで寄付を呼びかけ、総額12,469円の寄付をいただきました。

<http://www.kishapon.com/chernobyl/>

#### ▼寄付者数：

2015年年度中に、約1,600名<sup>(※)</sup>の方からご寄付を賜りました。心よりお礼申し上げます。

…※延べ人数、ただしマンスリーサポーターは1カウント/名で算出しています

#### ▼会員数：

正会員) 40名 賛助会員) 1,586名 …2015年12月現在